

「むつ中間貯蔵施設・使用済核燃料搬入反対青森県集会」が開催されました 搬出先を明記できない「安全協定」はあり得ない！

6月16日、青森駅前公園で「核のゴミから未来を守る青森県民の会」の主催で「むつ中間貯蔵施設・使用済核燃料搬入反対青森県集会」が開催されました。

開催直後は小雨模様でしたが徐々に回復し、集会終了後のデモ行進まで天候はもちました。集会は阿部一久共同代表の開会挨拶で始まり、県民の会の事務局次長でもある栗橋事務局が基調提起を行い、現在進められている県や事業者の対応の問題点を指摘しました。その後、県民の会・古村一雄共同代表、現地実行委員会・中嶋寿樹委員長、また下北の会からは野坂代表に

代わり佐々木まき子副代表、あおりネットワーク大竹進共同代表、参加議員団を代表して安藤晴美県議らがそれぞれ連帯の挨拶を行いました。また、新潟からは「さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト」の小木曾茂子さんが特別参加、『むつ中間貯蔵稼働は老朽化原発再稼働目的以外の何物でもなく、許しがたい』と述べました。その後、集会アピールを全員で採択し、県民の会・奥村榮共同代表の閉会のあいさつを受けて青森市内をデモ行進しました。当日の参加者は130名でした。

↓6/17 デーリー東北



むつ中間貯蔵への核燃料搬入に反対
青森で市民団体集会

市民団体「核のゴミから未来を守る青森県民の会」が16日、今夏の操業を予定する使用済み核燃料中間貯蔵施設（むつ市）への核燃料搬入に反対する集会を青森市の駅前公園で開いた。

集会には約130人が参加。阿部一久共同代表が「むつ市に搬入された核燃料がそのまま留め置かれることを危惧している。県内に搬入させないよう全力を尽くそう」とあいさつ。「核の中間貯蔵はいらない！下北の会」の栗橋伸夫事務局長は「県が示した安全協定案には核燃料搬出先の明示はなかった。きちっと示して

ほしい」と同施設が抱える課題を指摘した。続いて全員で「50年後の確実な搬出先を明示できないのでは中間貯蔵施設とは言えず、直ちに中止するべきだ」との集会宣言を採択した。

この後、参加者たちは駅前の目抜き通りをデモ行進した。（阿部泰起）

デモ行進する参加者たち16日、青森市

当日のプログラムより

このままでは

核のゴミ捨て場になってしまう

リサイクル燃料貯蔵（RFS）は、3月27日にむつ中間貯蔵施設の事業開始を発表した。

「使用済核燃料の貯蔵期間は、建屋に搬入後50年」と明記。

しかし、最長50年間保管した後の搬出先は決まっておらず、中間貯蔵施設が一端を担う核燃料サイクルの要となる六ヶ所村の再処理工場は未だに稼働していない。

事業者は保管期間終了後は新設する「第2再処理工場」へ搬出すると述べていたが、今や「第2再処理工場」の構想も、国のエネルギー基本計画から消えた。運び込まれた使用済核燃料が、行き場を失う危険性は大きい。何をもって50年後に搬出できるというのだろう。

使用済核燃料は、

再処理しなければ高レベル放射性廃棄物

■原子力規制委員会の更田委員長は会見で「恐れるのは（使用済燃料の）出ていく先が無い状態でキャスク（保存容器）の耐用年数が来てしまうこと」と述べた。（2020/9/2）

■中間貯蔵施設を認めると、六ヶ所村の高レベル放射性廃棄物、再処理工場からの高・低レベル放射性廃棄物、東通原発の使用済核燃料、大間原発の使用済MOX燃料、原船「むつ」の放射性廃棄物などなど下北半島全域が「核のゴミの集積地」となる。

■中間貯蔵施設の事業がスタートすることは全国の恒久化原発の再稼働にもつながる。原発事故のリスクを一層大きくすることになる。

えっ？



中間じゃなかったの？

さすがの自民党も…

永久貯蔵を懸念しているのか、
そして核燃サイクルに展望がないことを

蔵貯中間つむ

知事に「覚書」要請で調整

県議会自民「事業困難なら搬出」

むつ市に立地する使用済み核燃料中間貯蔵施設を巡り、県議会の最大会派・自民党が宮下宗一郎知事に提出する意見書で、安全協定とは別に「覚書」を事業者などと交わすよう求める方向で調整していることが25日、関係者への取材で分かった。中間貯蔵事業の実施が困難になった場合に、核燃料を施設外へ搬出することの確約を求める内容となる見通し。

9月までを予定する事業開始に向け、県と市、リサイクル燃料貯蔵（RFS）が結ぶ安全協定案には、貯蔵期間を最長50年と明記。事前連絡や立ち入り調査などの項目も盛り込んだが、貯蔵後の核燃料搬出先には触れていない。県は県議会

各会派に定例会開会（28日）までに協定案への意見書の提出を求めている。

関係者の話を総合すると、自民会派は意見書で協定案をおおむね妥当とする内容で調整中。留意事項として、覚書の締結を求める方向という。核燃料を長期にわたって一時保管するに当たり、事業が困難になった場合の搬出に関して責任を明確化する狙いがあるもよう。知事が関係関係と意見を交わす「核燃料サイクル協議会」を必要に応じて開催することも盛り込む方針。国に中間貯蔵事業の位置づけを確認するためとみられる。

県議会では新政未来、共産、参政の各会派も意見書を提出する方針。公明は調

整中。

県と原子力事業者との覚書を巡っては、1998年に再処理工場（六ヶ所村）への使用済み核燃料搬入に際し、日本原燃と交わした先例がある。（本紙取材班）



↑6/26 東奥日報

県議会でも安全協定案の議論が続いていますが、50年後の搬出先が明記されていないことが最大のポイントとなっています。事業者側、資源エネルギー庁の立場は『その時、稼働している再処理工場』とまさに空念仏を繰り返すだけです。そして、核燃サイクル計画が中止になったときの対応を問うと『仮定の話には答えられない』として一切答えようとしません。

私たちの立場から言えば『50年後に再処理事業があり、全量再処理路線が継続している』と考える方がまさに非現実的で仮定の話だとししか考えられません。

さすがの県議会与党議員団も、このままでは県民を納得させることは困難だと考えている証ではないでしょうか。

国策に振り回され続けながらも、今、原子力マネーに故郷の命運を委ねようとする県政、市政の立場を大きく転換すべきではないでしょうか。

「国策に協力する」ことを大義名分にした一連の原子力基地化構想、このままでは下北半島だけが唯一、高レベル核廃棄物貯蔵区域となることは必至です。

←6/9 デーリー東北

隣接5町村も安全協定

むつ・中間貯蔵 RFSに申し入れへ

7～9月の事業開始が見込まれる、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設を巡り、隣接する大間、東通、風間浦、佐井、横浜の5町村が、施設を運営するリサイクル燃料貯蔵（RFS）と安全協定を締結する方向で調整を進めていることが8日、関係者への取材で分かった。協定は5町村連名のRFSと結ぶことを想定し、今後締結を申し入れる方針。住民の不安を少しでも払拭するために締結し

たいとしている。施設は放射性物質漏えいの可能性が極めて小さく、重大な原子力災害が想定されないといわれる。国の原子力災害対策指針では、原発などと異なり、事故時に直ちに避難が必要となる施設から半径5km圏の「予防防護措置区域（PAZ）」、屋内避難を求める半径30km圏の「緊急防護措置区域（UPZ）」は設定されていない。関係者によると、5町村は使用済み核燃料を保管す

る施設であることを踏まえ、安全確保のために連携した取り組みが必要と判断。昨年から協議を進め、締結する方向で合意した。安全協定を巡っては現在、RFSと、県、市の3者が締結に向けた協議が進んでいる。県や市が公表した協定案では、搬入される使用済み核燃料の貯蔵期間を50年と明記したほか、情報公開や風評被害への措置などを規定している。5町村が結ぶ協定は、3

者とは別に結ぶ方針。今後、具体的内容を協議し、3者が締結した後に、手続きを本格化させる考え。取材に対し、施設に最も近い東通村の畑中稔朗村長は「他の原子力施設と異なり安全性は高いが、市民の不安を取り除くために必要と考えた」と説明。風間浦村の富岡宏村長は「施設が集中して立地している地域でもあるので、万が一に備えて結ぶたい」と述べた。（佐藤航）

むつ市議会第 260 回定例会、補正予算で災害用トイレ増設や給食費無料化などが採択 杉浦議員は大湊線存続問題など、佐藤武議員は中間貯蔵施設問題を取り上げました

むつ市議会 260 回定例会は 6 月 4 日より 27 日まで開催されました。この中で一般会計補正予算として①災害時のトイレ不足を改善する移動式トイレ「トイレカー」の整備、②整備が遅れている小中学校のトイレ洋式化、③県の交付金を活用した学校給食費無償化を 10 月から実施するための事業費などを追加、④ＪＲ下北駅の駐車場の 30 台分増設事業費などが提案、可決されました。学校給食については、市の平均単価が小学校 330 円、中学校 350 円に対し、県交付金は小学校 280 円、中学校 310 円のため、差額はむつ市が負担する内容となっています。

また、一般質問には 15 名の議員が登壇しました。

【杉浦弘樹議員の一般質問概要】

防災対策 旧町村部を中心に避難所としての機能が乏しい施設が多い。とりわけ対象人員の多い大畑公民館や大畑体育館などは老朽化が著しい。冷暖房、耐震性などを早急に改善してほしい。

◆答弁 現在、避難所として 98 カ所の公共施設を指定しているが、一部で老朽化が進んでいるのは事実で今後順次改善していく。大畑体育館などは収容人員計画も多いので場合によっては他地域への誘導もありうる。

二ホンザル対策 個体数は減少しているが農作物への被害額は増加している。対策予算は減額となっており、十分な対策ができるのか。監視人、モンキーダックの効率的配置、電気柵延長等を検討すべき。

◆答弁 予算は減額されているが大型檻 1 基、小型檻 5 基の追加設置や効率的な電気柵の設置で頭数削減や被害の縮小に努めたい。（新聞記事参照→）

海峡ラインの修復状況 生活面や観光面としても重要な脇野沢～野平間の修復工事の現状や完了メドや道路情報の充実を望む。

◆答弁 豪雨による寸断後、仮設道も検討したが地盤が弱く断念し、現在は盛土作業中で開通は来春の予定である。道路情報などの広報体制は強化していきたい。

ＪＲ大湊線存続対策 津軽線・蟹田三厩間のような災害を契機とした廃線への懸念や住民アンケートに基づく今後の対応を示してほしい。

◆答弁 津軽線の一部廃線は直接、大湊線存廃には結びつかないが、引き続きあらゆる努力は行う。住民アンケートではＪＲ八戸駅への直行便の増便や野辺地駅での列車待ち合わせ時間の短縮、下北駅駐車場の拡充などの要望があり、それぞれＪＲへ申し入れたいと考える。下北駅駐車場は拡張を進める予定。また自治体によって大湊線の用途二ーズに違いがあるため、状況に合わせた対応を検討する。

杉浦弘樹議員は①防災対策として、むつ市が指定する避難所の老朽化対策と今後の施設の管理運用方法について、②二ホンザル被害対策で予算縮小の影響や今後の被害対策方法及び野猿監視人の雇用状況と人員確保について、③国道 338 号海峡ラインの復旧状況と市の取組について、④ＪＲ大湊線存続に向けてＪＲ津軽線蟹田三厩間の廃線の影響、住民アンケート結果を踏まえた今後の方策や活性化協議会の対応について、の 4 項目について行いました。

また、佐藤武議員（共産）はむつ中間貯蔵施設問題に殆どの時間を使って市側の姿勢を追及、井田茂樹議員は医療的ケア児対応を質しました。（次ページに掲載）

北限のサル 96 頭捕獲

対策の変更で
23 年度大幅増

むつ市議会

一般質問

むつ市議会一般質問最終日の 18 日、5 議員が登壇した。個体数の増加による農作物被害などが懸念される「北限のサル」について、市は 2023 年度の捕獲頭数が 96 頭で、前年度より 77 頭増加したと明らかにした。個体数が増える中、捕獲に重点を置いた対策が奏功。24 年度はさらにおりを

増やし、被害の未然防止を図る考え。
市の調査では、サルの個体数は 22 年度が 1405 匹と、18 年度以降の過去 5 年間で最多。近年は生息範囲も拡大し、脇野沢や川内地区だけでなく、関根や大畑地区でも増加している。これまで、野猿監視人やモンキーダックによる追い上げ中心の対策を行ってきたが、増加する頭数への対応に苦慮。こうした状況を

を踏まえ、頭数を減らすため、おりの設置による捕獲を対策の柱としたという。
24 年度は大型のおり 1 基、小型のおり 5 基を追加導入する方針。
伊藤大治郎産業政策部長は「頭数が減少に転じるなど一定の効果があつた。継続して取り組んでいく」と述べた。

（佐藤航）

質問中の杉浦議員（市ホームページより）



佐藤武・高橋征志議員、中間貯蔵施設稼働の問題点を追及するも具体的回答はありませんでした

今回の一般質問では中間貯蔵施設問題について佐藤武議員の他、高橋征志議員（無所属）らが質問をしましたが、殆どが具体的な中身のある答弁とはなりません。また両名以外にもオフサイトセンター問題などで数名の質問がありました。（青色文字部分が回答として当方で把握できたもので、回答がない部分は記載に値しないと判断しました）

【佐藤武議員（共産）の質疑】

- ・ 中間貯蔵事業は核燃サイクル事業の一環であるはずだが、サイクルが回るメドがないのに本事業を先行させる必然性がないのではないのか。どことどこがどのように繋がってサイクルというのか。
- ・ 柏崎刈羽原発も六ヶ所再処理工場も稼働していない中で様々なリスクを冒してまで搬入させる必要性はあるのか、事業者の本音は柏崎刈羽原発施設に溜まっている使用済み核燃料を搬出して同原発への再稼働のためだけに過ぎないのではないのか。《回答》今回の搬入は同原発の4号機からであり、東電が稼働を目指しているのは6、7号機であり、指摘は当たらない。
- ・ 事業者から3年間の搬入計画が示されたが中長期的計画が示されていない以上、今回の搬入は場当たりの貯蔵としか言えない。
- ・ このような状況で搬入を認める根拠は何か。《回答》国策上、重要な施設であり、国策に協力することに意義がある。また、諸交付金等で市の財政の一端を担うことになる。
- ・ 住民説明会がこの程度の回数で市民の声を十分吸い上げられると判断するのか、住民投票などであらためて住民の声を聴くべきではないのか。
- ・ 安全協定案には搬出先が明示されておらず永久貯蔵のリスクをどう捉えるのか。《回答》貯蔵期間遵守は協定当事者間の共通認識であり、問題ないと思うが、県民の意見をさらに踏まえるつもりである。また、エネルギー基本計画に搬出先を明確化するよう求めていくこととしている。
- ・ 貯蔵期間終了後の搬出先を事業者、エネ庁とも『その時点で稼働している再処理工場』としている

- が、それこそ希望的観測に過ぎないのではないのか。
- ・ 2棟目が作られると理論上、最大100年の貯蔵期間となるのではないのか。《回答》市としてはそうした考えには立っていない。
 - ・ 中間貯蔵施設に搬入された使用済み核燃料が優先的に再処理されることはない事業者は述べているが、それでは中間貯蔵とは言えないのではないのか。
 - ・ キャスクの1次蓋、2次蓋どちらも破損した場合の対応が不明確である。《回答》3次蓋で覆うことで安全性が担保され则认为。
 - ・ 安全協定には搬出元の親会社と受入れ事業者（RFS社）との保管契約の内容もキチンと記載すべきではないのか。
 - ・ 事業者は今日までの対応を見た場合、本当に安全協定の当事者としての能力があるのか。キチンと親会社から期間後の搬出の担保を取るべきである。
 - ・ 親会社以外からの搬入、いわゆる共用化を断固認めないとする立場を将来にわたって堅持してほしい。
 - ・ 住民説明会などを踏まえて安全協定を結ばないという選択肢はあるのか。《回答》スケジュールありきで進めるものではないと考える。

【高橋議員（無所属）の質疑】

- ・ 核燃サイクル事業が中止に至った時の対応はどうなるのか。《回答》サイクル事業推進方針は国家政策としてゆるぎないものと考えている。
- ・ 稼働後の住民への安全上の具体的な対応はどんな計画、災害時の対策を考えているのか。《回答》絶えず情報の開示や住民への施設の見学などを行いたいと考える。また災害時対応は原発施設と違い、特別な仕組みはなく一般的な原子力災害対応と考える。
- ・ オフサイトセンターの進展具合や運営方法、建設費用などへの考え方を示してほしい。《回答》建設主体は県であり、内閣府の承認のもとに建設され、費用は交付されるので自治体の拠出はないと判断している。建設スケジュールや要員規模などは検討中。
- ・ 誘致当時の市長は貯蔵期限後の搬出は原子炉等規制法で担保されていると発言していたが、現在でもそのように認識しているのか。

医療的ケア児童の家族負担軽減へ…井田茂樹議員（自民ク）の質問への答弁

今回の市議会では井田茂樹議員（自民ク）の質問に答える形で「医療的ケア児童」のサポート対策について、むつ市は今秋にも、家族の負担軽減を目的とした支援事業を始める方針を明らかにしました。一時的に介助を休息できるよう、訪問看護サービスの利用を一部助成すること。医療的ケア児と家族の支援を巡っては、一時的にケア児を受け入れる短期入所施設の設置が県内でも徐々に進んでいるが、むつ市にはな

い。市によると、開設に向けて医療機関などと調整を進めているものの、設置に時間が掛かるため、支援事業の実施を決めたとしています。斉藤健康福祉部長は「現在利用時間や料金など詳細を検討している」と説明。また、医療的ケア児の個別避難計画を作成するほか、避難訓練についても実施方法を関係機関と検討するなど支援を強化していく考えを示しました。

（デーリー東北記事より）

全議員の一般質問内容 VOL.41 2024.7.1



◇東健司議員（市誠ク） 災害関連死審査会の立ち上げの必要性の認識は。
▷吉田真副市長 市では設置していないが、法律で努力義務としており、設置検討は必要と認識している。県内自治体の状況などを調査し、検討していく。

◇井田茂樹議員（自民ク） むつ運動公園のトイレの改修状況は。
▷石橋秀治市民生活部長 国内にトイレは7カ所あるが、老朽化により使用可能なのは5カ所。現在、洋式化への改修を順次進めており、男女共用となっている野球場のトイレの在り方も検討する。

◇工藤祥子（無所属） 施設入所者の待機の現状を示せ。
▷斎藤健康福祉部長 23年10月の調査では介護保険施設等への待機者は228人。そのうち、特別養護老人ホームが206人、介護老人保健施設10人、グループホーム8人などとなっている。

◇高橋征志議員（無所属） 中間貯蔵施設に係る市使用済燃料税の計上時期を示せ。
▷松谷勇財務部長 施設にキャスクが貯蔵された時点で課税となるため、貯蔵の見通しが明らかになった段階で補正予算に計上する。使途はその都度予算化し、明確化する。

◇佐藤武議員（無所属） 市の将来にとって中間貯蔵施設はどんな意味合いがあるか。
▷山本知也市長 国策へ協力することで、電源立地地域対策交付金などの安定財源の獲得により、一層の地域振興の推進を図ってきた。今後も同交付金を最大限有効活用する。

◇住吉年広議員（公明・自由） 子宮頸（けい）がんを予防するHPVワクチンの市内の接種状況は。
▷斎藤洋一健康福祉部長 定期接種が始まった13年度から23年9月までに、1回目の接種を済ませたのは20.4%。接種機会を逃した人へのキャッチアップ接種は35.3%。

◇佐々木隆徳議員（陸奥未来） 海上自衛隊大湊地方隊は組織改編でどうなるのか示せ。
▷角本力政策推進部長 24年度末で横須賀地方隊の隷下の大湊地区隊となる。護衛艦は1隻追加の8隻体制となり、定員規模は約2900人から30人程度増員される予定。

◇野中貴健議員（市誠ク） 災害対応を妨げる可能性がある空き家の状況は。
▷木下尚一郎都市整備部長 24年3月末時点で確認している1612戸のうち、所有者を把握しているのは約300戸。管理不在の空き家を把握した場合は、所有者を特定し、適正管理を促している。

◇櫻田秀夫議員（公明・自由） 市営住宅の利用状況は。
▷木下都市整備部長 24年6月1日現在、市営住宅19団地のうち、利用に供しているのは14団地349戸。うち328戸が入居しており、入居率は94%で、5年前の87%と比べると増加傾向にある。

◇浅利竹二郎議員（自民ク） 合葬墓の必要性の認識は。
▷吉田真副市長 20年度実施のアンケートで高いニーズがあった。県内で設置している八戸市などの霊園を視察し、設置までのプロセスや管理状況について情報収集をするなど検討を進めている。

◇佐賀英生議員（市誠ク） 燐岳（ひうちだけ）周辺地域の地熱開発事業の現況は。
▷山本知也市長 1、2号井の短期噴気試験では酸性の蒸気が確認されている。本年度は3号井の掘削計画検討のための調査や、酸性蒸気の活用も視野に検討を進める予定。

◇佐藤広政議員（市誠ク） 市教育研修センターの建て替えの考えはないか。

▷山本市長 老朽化に伴い、市教委が移転や建て替えを検討している。市としても子どもたちが安心して活動できるように、代替施設の確保も含めて取り組んでいく。

◇杉浦弘樹議員（無所属） 国道338号海峡ラインの復旧状況を示せ。

▷木下尚一郎都市整備部長 22年8月の豪雨災害による道路崩落で通行止めとなった。現在、道路の盛り土作業を実施しており、開通は来年春の予定と県から聞いている。

▷木下尚一郎都市整備部長 開通は来年春の予定と県から聞いている。

◇斎藤栄子議員（無所属） 大規模風力発電事業に対する市の認識を問う。

▷山本市長 事業者の情報提供と説明不足で地域住民とトラブルになるケースが散見される。地域住民との合意が得られない、自然環境と共生しない計画には反対の立場だ。

◇中村正志議員（自民ク） 使用済み核燃料中間貯蔵施設に係る市町村長会議で出た意見の受け止めは。

▷山本市長 中間貯蔵施設については理解いただいたと感じた。施設というより原子力に対する国民への理解促進をしてほしいとの意見が大半だった。

そこまでやるか、マイナンバーカード押し付け！むつ市の便乗も許せない！ 「AGEHA（むつ市高齢者無料乗車証）」に続き、「スマホデビュー応援補助金」も！

健康保険証は、2024年12月2日に廃止され、マイナンバーカード（マイナ保険証）に一本化されることになりました。それ以外にもマイナンバーカードの用途拡大や普及を巡り、政府や自治体の取り組みに強引さが目立ちます。賛否が分かれるカードの押し付けは制度に対する国民の不信を強めるだけであり、再考を促したいものです。

わがむつ市においても、高齢者の公共交通機関の利用促進を目的として、75歳以上の方を対象にむつ市高齢者無料乗車証（AGEHA）を交付し、市内路線バスおよびデマンド型乗合タクシー、コミュニティタクシーの運賃無料化を実施しています。しかし、ご承知のように、その対象者はマイナンバーカードを保有する75歳以上の市民に限定されています。

そして4月にスタートした「スマホデビュー応援補助金」も同様にマイナンバーカード保有が条件となっています。はじめてスマートフォンを契約する65歳以上の市民へ最高32,000円、従来のガラケー（旧

型携帯）からの切り替え契約する65歳以上の市民へ最高20,000円を補助するというものです。

いずれも制度としては高齢者福祉制度の一環として評価できますが、なぜ、マイナンバーカード保有を条件とするのか理解に苦しむところです。法律で義務化されているわけでもないマイナンバーカードにこだわることは市民を差別することに他なりません。すべて均等な対応を強く求めるものです。

この背景には国が地方交付税配分でマイナンバーカードが普及している市町村を優遇する形で配分したことが挙げられます。こうした国の強引な政策も断じて許されるものではありません。



**高齢者にはうれしい制度ですが…
でも、なぜマイナンバーカードが条件なの？**

有機フッ素化合物「PFAS」汚染から水の安全を守る行動が求められています

前月号でも取り上げましたが、三沢基地の東西にある溜め池で民間団体の調査で高濃度の「PFAS」が検出され、青森県としても調査の結果、基準値の14倍にもあたる「PFAS」が検出され、地域住民の間では健康被害について不安を抱えています。

こうしたことを踏まえて、6月26日に三沢基地周辺町内連合会が三沢市を訪れ、発生源の特定などを要請しました。

三沢基地周辺町内連合会種市光雄会長は「五川目堤から14倍以上の高い数値が出された、まさにあってはならないこと我々の生活の一部に関することなのでできるだけ軽減できるよう国の機関に働きかけていただきたい」として三沢市と市議会に有機フッ素化合物「PFAS」の発生源の特定などの調査を要請しました。小松山三沢市長は「市としても継続的に水質調査を実施していく」と答えていました。

一方、内閣府の食品安全委員会は6月25日、国としてPFASについて初の評価書を決定しました。評価

書ではPFASの代表的な物質「PFOA」と「PFOS」について人が1日に摂取する許容量は体重1キログラムあたり20ナノグラムとしました。新たな調査や研究の結果が集まれば見直す可能性もあるとしています。出生時の体重低下やワクチン接種後の抗体低下など健康への影響は「関連は否定できない」としたものの、「証拠は限定的」や「証拠は不十分」と評価するにとどめました。こうした国の見解について懐疑的なコメントも多くの団体や専門家からも述べられています。



内閣府食品安全委員会評価書より

PFASの項目別の影響評価と1日の摂取許容量

肝機能への影響・脂質代謝異常
可能性は否定できないが証拠は不十分

ワクチン接種後の抗体低下
可能性は否定できないが証拠の質などに課題

出生時の体重低下
関連は否定できないが知見が限られる

発がん性
* 関連ありとする報告はあるが証拠は限定的（PFOA）
* 証拠は不十分（PFOS）

1日の摂取許容量
PFOA、PFOSで体重1キログラムあたり各20ナノグラム

全国の水道水PFAS調査

9月まで、国、1.2万カ所報告求める

健康への影響が懸念されている有機フッ素化合物（PFAS）について、国が水道水からの検出状況の調査を進めている。環境省と国土交通省が5月末、都道府県や事業者などに対し、9月末までに水道約1万2千カ所の状況を報告するよう求める通知を出した。小規模な水道も含めた調査は初めてになる。

PFASは1万種類以上あるとされる有機フッ素化合物の総称。代表的なものがPFOAとPFOSで、PFOAで、国内では2020年に、飲み水についてはPFOAとPFOSを合わせて1リットルあたり合

また、今回の調査は小規模な水道も初めて対象とする。大学や病院、マンションなどで使われる自家用の水道で、事業者などに水質検査の実施を求める。すでに回答や問い合わせが来ているといい、環境省は「より検出実態を詳細に把握できる」としている。

計50ナノグラムとする暫定目標値を設定している。環境省によると、通知は都道府県などに対し、2024年度に、PFASを調べる水質調査をしたか▽検出された場合の最高濃度▽検出された浄水場名――などの回答を求めた。

有機フッ素化合物(PFAS)

用途
こびりつかないフライパン
水をはじく衣類
泡消火剤など
半導体製造

特徴
水や油をはじき、分解されにくい

健康への影響
水や食品を通じて摂取し、体内に蓄積
血中のPFAS濃度が20ng/mL超が続いた場合…
胎児・乳児の成長阻害
腎臓がん
脂質異常症
抗体反応の低下

【編集後記】スペースの工夫が難しく、こんな箇所に書きます。連日、ライフワークとしてきた中間貯蔵施設問題でアタフタしています。時節柄、いろいろな方面から ZOOM 会議参加やコメント取材などに追われています。紙面も多くがこの問題ばかりになってしまいました。月初めからは「住民説明会」が始まります。どの程度の効果があるかわかりませんが、当局を「やり込める」というより会場参加者やネット視聴者に共感してもらうような発言ができれば、と思っています。それより、まずはどれだけの市民が参加するのか気懸りです。（栗）

毎年恒例の脇野沢地区での緑化記念植樹祭が脇野沢勤労者福祉協議会（濱田小一会長）の主催で開催されました。この植樹祭は 1993 年からほぼ毎年開催されています。

29 回目になる今年は 6 月 9 日、脇野沢地区愛宕山公園にツツジの苗木 16 本を植えました。近年は同地で

のツツジ苗木植樹が続いており、桜の季節が終わると同公園では見事にツツジが咲いて地元の人や鯛島観光に来られる人々を和ましています。植樹終了後は地元婦人会や商店会の方々と交えて約 40 名で交流会を開催しました。来年は 30 回記念となるため、より盛大に開催することとしています。



シリーズ・歴史を紐解く⑱

ふるさとの地名の由来

◆ このコーナーはデーリー東北に不定期に掲載される「北奥羽の地名」より転載しています

【尻屋】

東通村の北東部には「尻屋」と呼ばれる集落がある。2002 年に青森県の天然記念物に指定された寒立馬の生息地として知られる尻屋崎があるのが有名。本州最北東部の集落である尻屋は、太平洋と津軽海峡に突き出た尻屋崎の太平洋側の海岸段丘面にあり、近くには桑畑山がそびえ立つ。

村史などによると、集落はかつて、現在の場所からさらに北側の海辺にあり、津波の被害を受けたために移動したとの説も残っているという。地名は、アイヌ語に由来するというのが有力。アイヌ語で「シリ」は山、「ヤ」は陸岸を意味し、集落が桑畑山の陸岸側にあることから「シリヤ」と呼ばれるようになったとみられている。

【奥戸】

大間町中西部に位置する「奥戸」地区は、対岸の北海道松前地区に最も近く、海路の拠点として古くから発展。町の中でも、いち早く開けてきた集落だ。町史などによると、奥戸は、もともとは「オク

ノヘ」との呼び方だった—という説もあるが、アイヌ語に由来して名付けられたという説が最有力。アイヌ語で「オ」は川尻、「ウコッ」は交わる、「ペ」はものという意味。同地区では奥戸川と小川代川の二つの川が海岸線の近くで合流しており、こうした土地柄から「オコッペ」と呼ばれるようになったとみられている。北海道北東部の紋別郡にあり、同じ読み方の興部町も、興部川と藻興部川が合流してオホーツク海に注いでいたことから、アイヌ語がなまって「オコッペ」との地名になったとされる。地理的な条件は、大間町の奥戸と酷似しており、このことから、アイヌ語説が有力という。奥戸地区は、大間地区に並ぶ町の一つの拠点集落。本年度には、防災公園に繋がる新たな町道の整備などが計画されている。

【材木】

地名上は大間町奥戸地区の小字の一つだが、行政区分では大間、奥戸と並んで大間町を構成する地域の一つで、漁業などが盛ん。集

落西側に防御用の柵に用いたのが始まりとされる。2016 年 6 月末現在、76 世帯 163 人が暮らす。町中心部から 10 km ほど南に位置し、南には佐井村が隣接する。歴史上は大間町で最も早く集落が形成されたエリアで、地名も下北半島で一、二を争うほど古いとされる。

町史によると、貞観元(859)年、征夷大將軍坂上田村麻呂の遺児・佐井丸が下北半島を管理していた当時、蝦夷の来襲に備えて、集落西部の津鼻崎に柵として用いたのが「材木」の始まり—との伝承がある。

佐井丸の「館」は海岸沿いの赤岩付近か、八森山付近にあったのではないかと推測されている。津鼻崎など一帯の海岸線は、下北ジオパーク構想のジオサイト候補地「佐井」の一部。至る所で「柱状節理」という、柱状の割れ目が入った岩を見ることができる。柱状の岩は建材などに加工しやすく、地元では「材木石」として、石垣や車止めのほか、漁業にも活用されている。

下北の民話「正津川のカッパ」と「正津川のためき」 ～今回は大畑・正津川にまつわる民話2題です～

「正津川のカッパ」

下北半島の恐山にある、宇曽利湖という湖から流れる水が大きな川となって、大畑の町の東側を流れ、津軽海峡に注いでいる。この川を正津川という。

この正津川に、昔、カッパがいて、さんざん人間に悪さをして困らせたそう。川で洗濯していると、その洗濯物を川の底に引っ張ったり、大根やカブを洗っているとその大根やカブを川へ流してしまったり、水遊びをしている子どもの足を引っばって、溺れさせようとしたりした。ある時、このカッパ達が、川や海で魚を取っている舟の底に穴を開けて、五艘も六艘も沈めてしまった。魚を取って暮らしている村の人はカンカンに怒って、正津川のほとりに住んでいるショウズカ婆さんの所へやってきた。ショウズカ婆さんは大変信心深く、三日にあけず恐山のお寺へお参りしては仏様を拜んでいた。あの婆さんなら、きっと仏様のお力でカッパを懲らしめてくれるのではないかと、みんなで行ってお願いした。ショウズカ婆さんは次の日、恐山のお寺へ行くと、一心に仏様にお願いをした。

「仏様、仏様、正津川のカッパのいたずらで、村の人が大変困ってiyas。なんとかカッパをこらしめる方法を教えてくださいなせ」と、その夜、夢枕に仏様が立った。「ここにお経の本があります。これを小さく小さくちぎって、川へバラ撒きなさい。きっとカッパたちは息が詰まって顔を出すでしょうから、その時、こんこんと諭しなさい」目が覚めると、なるほど枕元にお経の本があった。婆さんは正津川のほとりに行くと、お経を唱えながら、そのお経の本を小さく小さくちぎって、川の水へ花びらのように散らした。と、「うあ、

苦しい、息が詰まる、息が詰まるだすけ」といって、十匹ほどのカッパが次々に顔を出した。

そこで、ショウズカ婆さんは、「こらカッパよ、お前たちは罪もない村の人たちにいたずらをして面白がっている。これからもいたずらを続けるというなら、この経文をもっとちぎって川へ流し、お前たちを窒息させてやるだすけ、どうだ」と言ったもので、さすがのカッパたちも、「今度から、悪さはしません」といって謝り、それからは人間にいたずらをしなくなったという話だ。どっとはらえ。

「正津川のためき」

昔、大畑の関根橋という村に爺様（じさま）がおった。この爺様の息子が、あさって祝言だという日に、爺様は馬を引いて、田名部の町に買い物に出かけた。帰り、正津川の村を過ぎると、とつぷりと日が暮れてしまった。「暗くなったけど、のんびり行くか」と、爺様は馬を松の木につないで小便していると、近くからカヤカヤという声が聞こえる。そっと近づいてみると、父親ダヌキであった。

「人間を化かすだなんて、とんでもねえ。人間は賢いから、タヌキがどんな術を使っても負けるに決まっている」「トーチャンのいう通りだすけ、やめやんせ」と、母親ダヌキもたしなめている。しかし、子ダヌキは一向にやめる気はない。「オラたちは、祝言のお客に化けで行って、たらよくご馳走食ってから、あの家に火をつけて燃やしてしまうつもりだ」

このタヌキの話聞いた爺様は、急いで家へ帰ると、婆様（ばさま）と何か相談した。さて、祝言の晩がきた。お客が詰めかけてくる。タヌキも羽織、袴の人間に化けているので、どれがタヌキか分からない。みんなお膳にすわって、さ

あ一献という時、いつものしきたりと違って、爺様がまず挨拶をはじめた。

「今日はよくおいで下さいした。一献差し上げる前に、わしと婆様の踊りば観てくだせ」といって、爺様が大声で歌いだした。『婆様や婆様、表の戸っこ閉めてござれ』すると婆様が踊りながら、『あーいと心得た』と、表の戸を閉めて鍵をカチンとかけた。『婆様や婆様、裏の戸っこも閉めてござれ』『あーいと心得た』と、裏戸も閉めた。『婆様や婆様、天井の戸っこも閉めてござれ』と天窓も閉めた。『婆様や婆様、今度は押入の戸っこば、開けてござれ』『あーいと心得た』と婆様が押入を開けると、何匹もの犬が飛び出して、タヌキたちを噛み殺してしまった。

ところが、一匹のタヌキが逃げて行くのをみた爺様が、その後を追っかけて行くと、草の陰で声が出ている。「だから、やめろというんだ」「んでもオラは、これからあの家の屋根にのぼって、タンタンコロリン、タンコロリンと三回唱えて、あの家の者を全部殺してやるだすけ」「そんなことして、途中で天窓から竿につけた三年味噌をのべられて“チョーイトナ”と言われたら、お前が死んでしまうだに」

この話を聞いて、爺様は家へ走ってくると、長い竿に三年味噌をつけて待っていた。しばらくすると「タンタンコロリン、タンコロリン」と声がした。二回目が終わった時“そーれ”という爺様の声に婆様が、天窓を開けるヒモを引く。と同時に爺様が竿の先につけた三年味噌をぐいっと突きだして「三年味噌、チョーイトナ」というと、子ダヌキはもんどりうって屋根から落ちて、息が絶えたんだと。どっとはらえ。